



【戦後80年 語り続ける写真たち ～公文書館一帯は陸軍駐屯地だった～】

その2 駐屯地の正門

今回は、駐屯地の「正門」に注目してみましょう。

画像①は「歩兵第四十七聯隊」の門札が掛かる駐屯地正門を出発する学生を写したものです。

学生たちは詰襟に学生帽、足にはゲートルを巻いています。その前を進む男性は背広姿です。男性の服装として国民服令が制定されるのは昭和15（1940）年、この写真はそれより以前に写された教育教練（軍事教練）でのことと考えられます。

正門からの道はまっすぐ大分市の華街である竹町通りへと続き、この道を通して兵士たちは出征して行きました。

現在、この門の位置には学校施設の正門が建っており、生徒たちが元気に通い、繁華街へと続く道は生活道路として人々に利用されています。



画像①

画像②は、第72連隊が駐屯していた時の正門の写真です。

大正9（1920）年発行の「大分縣写真帖」のに収められたもので、画像①と比べてみると、門衛所の後ろには柳が植わっており、門を入った右手の建物はまだありません。

この画像は、「おおいたデジタル資料室」でもご覧いただけます。

「おおいたデジタル資料室」は、インターネットに接続した端末から「いつでも・どこでも・どなたでも」、豊の国情報ライブラリー（大分県立図書館・大分県立先哲史料館・大分県公文書館の三館の総称）が所蔵する資料を検索することが可能なシステムです。

気になる事象のキーワードで検索してみてください。

資料

- ・「大分県関係（古写真）」より「〔駐屯地正門を出発する学生〕」 昭和戦前期
- ・「大分縣写真帖（大正9年）」より「歩兵第七十二聯隊」

